

『大船渡市こども復興会議』の開催結果について

主 催：大船渡市・岩手県立大学

開 催 日：平成 23 年 9 月 23 日(金) 午前 9 時 30 分～午後 3 時 30 分

開催場所：大船渡市役所（議員控室）

参加者数：12 人（中学生 9 人、高校生 3 人）

内 容

ワークショップ形式で意見交換と模型を使った作業により、未来（復興後）の大船渡市をイメージする作業を行った。

タイムスケジュールは、以下のとおり。

- | | |
|---------------|---|
| 9：30 ～ 9：45 | 開会セレモニー（説明） |
| 9：45 ～ 9：50 | グループ・チーム分け |
| 9：50 ～ 10：45 | 大船渡市に残したいものや必要なものなどの話し合い |
| 10：45 ～ 11：15 | ギャラリーウォーク(他のチームの意見などを確認) |
| 11：15 ～ 12：00 | 必要な施設などを付箋に記入し、模型に貼り付け |
| 13：00 ～ 13：15 | 参加者全員で 3 つの模型パターンに合う施設を考察
(例) 市役所はチーム大空の模型の高台に設置 |
| 13：15 ～ 14：15 | 各チームで模型に住居、店舗などの施設や道路、橋、防波堤などを設置 |
| 14：15 ～ 15：00 | 各チームで作成した模型の特徴のまとめ |
| 15：00 ～ 15：15 | チームごとの発表 |
| 15：15 ～ 15：20 | 「僕たち、私たちの大船渡市復興提言」発表 |
| 15：20 ～ 15：30 | 閉会セレモニー（表彰、教育長講評） |

結果概要

下記のとおり、「僕たち、私たちの大船渡市復興提言」を取りまとめた。

僕たち、私たちの大船渡市復興提言

私たちの大好きな大船渡市の復興のために、次の 3 つの提言をします。

1. 津波に強い安全なまちにしましょう。
2. 伝統や文化を大切にしていきましょう。
3. 新しい大船渡市を創るために、みんなで力を合わせ協力し合いましょう。

(1) チーム大空の結果概要

必要なもの(残したいものを含む)

- ・ 公的な施設・・・学校(大学含む)、病院、役場、図書館
- ・ 運動する場所・・・市民体育館、公園、プール
- ・ 買い物する場所・・・ショッピングモール、コンビニエンスストア、ガソリンスタンド、楽器屋、スポーツ用品店
- ・ 交通・・・駅、広い道路、自転車道
- ・ 遊ぶ場所・・・遊園地、映画館、カラオケ、ゲームセンター
- ・ その他・・・祭り、市場、働く場所、伝統、石油ストーブ、懐中電灯、電池、ロウソク

震災後に考えたこと

- ・ 地震があった時にどうすればよいか。
- ・ 避難する場所について家族で話し合う。
- ・ 家族で高台の集合場所を話し合っておく。
- ・ 避難所を教える。
- ・ 地域の人々との交流があるとよい。
- ・ 大船渡にしかないものを大事にする。



「未来の大船渡市」の作成において工夫した点



- ・ 海沿いのかさ上げ道路でまちを守る。
- ・ 道路を広くして避難時の混雑を防止する。
- ・ 映画館、遊園地、カラオケ、ゲームセンターなど遊ぶ場所を多く設けた。
- ・ 低い平地には、津波の被害があまり大きくない施設を置いた。
- ・ 高台に住宅地を設置して、家屋の被害を少なくする。

(2) チームオギユウの結果概要

必要なもの(残したいものを含む)

ア 残したいもの

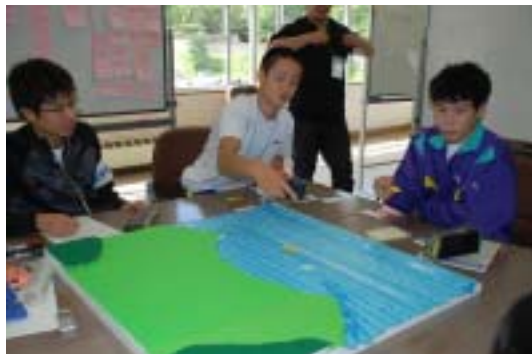
市役所、大船渡病院、消防署、警察署、盛駅、小・中学校、保育園、幼稚園、公園、市民体育館、公民館、博物館、太鼓、椿、かがり火、七夕祭、五年祭など

イ 必要と感じたもの

灯油、ガソリン、トイレ、ライフライン、懐中電灯、ロウソク、ストーブ、非常食、毛布、近所付き合い、早寝早起きなど

震災後に考えたこと

- ・ 病院や介護施設に非常電源を設置する。
- ・ 公共施設は高いところに設置する。
- ・ 防災に力を入れたまちづくり。
- ・ 高校以上の上級学校(大学・専門学校)があればよい。
- ・ みんなで集まれる場所やドーム球場がほしい。
- ・ 工業団地(働ける場所)を充実させてほしい。
- ・ 透明な素材の防波堤を設置してはどうか。
- ・ 電波塔を設置し、災害時にも連絡がとれるようにする。
- ・ 祭りを多く実施し、にぎわいを創出する。
- ・ 高台へスムーズに避難できるような交通網を整備してほしい。
- ・ 新しい防災マップを作成する。 ・ 浸水区域や避難所の再検討を行う。 ・ 自転車道を整備する。
- ・ 地震に対する備え、特に家具の固定化などを行う。



「未来の大船渡市」の作成において工夫した点



- ・ 家を津波から守るために住宅地を海から離れた。 ・ 駅を設置し、便利なまちをイメージした。
- ・ 住宅地に近いところに日常生活に必要な施設を設置した。 ・ 平地の広さを生かした。
- ・ 子供たちを津波から守るために保育園を高台に設置した。
- ・ 博物館(記念館)は、貴重な資料などを津波で流されないように高台に置いた。
- ・ 新しくドームを設置し、活気のあるまちをイメージした。
- ・ 防波堤は、船が出入りできるようにすき間を空けた。

(3) チームさかぬGの結果概要

必要なもの(残したいものを含む)

ア 残したいもの

津波の痕跡、祭り、花火師

イ 新しく欲しいもの

ショッピングセンター、古着屋、有名な飲食店、ドーム球場、県立大船渡病院よりも大きい病院、地域の人たちが集まれる大きい公園、地元就職率を高めるような工業団地、システムエンジニアの就職先(大手企業)

震災後に考えたこと

- ・ 携帯電話の電波が届かなかったので、電波塔を建てる。
- ・ 水道の復旧を早くしてほしい。
- ・ リアスホールをカラフルにしてほしい。
- ・ 広い歩道を整備してほしい。



「未来の大船渡市」の作成において工夫した点



- ・ 病院と学校は、高台かつ住宅地の近くに設置した。
- ・ 道路は主要道を兩岸に配置し、高台への路線数を多くした。
- ・ 橋を2本配置し、対岸への往来をスムーズにした。たとえ橋が1本寸断しても、対岸に渡れるようにした。
- ・ 橋が全部寸断されても最低限の生活を送れるように施設(食料品店、飲食店、ガソリンスタンド)を配置した。

本事業は、岩手県立大学総合政策学部伊藤英之准教授の企画・運営により、同大学地域政策研究センター震災復興研究費を活用して実施したものです。